

児童理解と相互親和を基調とする学級経営

池上良之助*

I はじめに

学校教育の目標は、単なる「文化の伝達」とどまらず、ひとりひとりの児童生徒の全人的発達を促すことを志向するものである以上、その目標達成には先ず「学級」という単位集団の成員である個々の児童を理解するところから始まらなければならない。学級内の集団構造を把握し、望ましい学習集団、生活集団を育成し、学校の教育目標、学年目標を受けて設定した学級目標を日々の教育実践をとおして具体化し、実現していく過程と、その過程で児童が主体的に学習に取り組み、行動し、そして自分の考えや意見を自由に表現できる、明るくなごやかなふん囲気に満ちた学級づくりをするところに、真の「学級経営」を進めていく基本があると考えられる。

II 研究の目的

集団意識も薄く、行動に思慮と落着きを欠き、学習意欲も低調と思われる学級集団を、児童ひとりひとりに目を向けることにより、親和、連帯、協調の意識化、態度化を図ることを、ねらいとする。

III 研究対象と学級経営の重点

1 対 象 4年生1学級 男子17名 女子23名 計40名

2 学級経営の重点

- (1) 児童理解——教育相談的態度をもって、児童ひとりひとりが生き生きと活動し、しかも集団モラルの高い学級づくりをめざす。
 - ・個をみつめ、その力をじゅう分發揮させ、何事にも積極的に取り組む態度の育成。
 - ・環境、学力、交友関係、適応性等の諸調査の実施および日常観察記録による実態は握と、それに適合した指導のくふう。
 - ・親和、協力、奉仕の心など正しい人間関係で結ばれた民主的な学級集団づくりに努める。
- (2) 学習指導——学習は個に成立することの認識にたった担任教師自身の教材および指導法の研究。
 - ・学習のしかたを正しく学びとり、主体的に学習に取り組む児童の育成。
 - ・ひとりひとりの児童が、学習をどのように受け止め、定着させているか分析的評価と指導の反省。
 - ・1時間1時間の授業を大切に、指導のねらいの明確化と内容の重点化に努める。
- (3) 生活指導——生活のめあてをはっきりもたせ、ひとりひとりが「自己実現」に向って努力し、生活

* 南魚沼郡塩沢町立塩沢小学校

に充実感をもたせるように指導する。

- ・集団の規律秩序を尊重し、これを守る態度、行動を身につけさせる。
- ・自分の長所を知ってこれを伸ばし、短所を克服する意欲をもたせる。
- ・進んで体力づくりに努め、また健康、安全に心がける態度化に努める。
- ・物事にけじめと責任をもって行動し、生活力のたくましい児童の育成をめざす。

Ⅳ 児童理解についての実践 — 個に即した指導をめざして —

1 学級の実態

(1) 家庭環境調査から(48・4実施)

児童の75%は、5人以上の家族で家庭内はにぎやかであるが、反面、きょうだい数は95%が3人以下で多いとはいえず、祖父母との同居家庭が目立ち、幼いときからその何らかの影響を得ているものと思われる、いわゆる「年寄りっ子」である。また長子に生まれた者が43%、末子に生まれた者が

(表1) 家庭環境 (数字は実数) 40%もあり、比較的のんびり型の自主性のとほしい

家族人数	3	4	5	6	7	8	9	10
児童数	3	7	11	11	3	3	1	1
兄弟人数	1	2	3	4	5			
児童数	3	19	16	1	1			
出生順位	長男	長女	次男	次女	3男	3女	長子	末子
児童数	13	14	3	7	0	3	17	16
在宅状況	父在	母在	両親在	両親不在	老人在			
児童数	10	21	7	16	25			
習いごと	そろばん	ピアノ	習字	柔道				
児童数	23	3	5	2				
勉強部屋	専有	共有						
児童数	15	12						
学習をみる人	あり	なし						
児童数	12	28						

児童の多いことがうかがわれる。加えて40%の児童の親は共かせぎで、家庭でのしつけ面は放任されがちのようである。習いごと「そろばんじゅく」へ通っているのが58%もあるが、これはこの時期の発達段階から考え、友だちの模倣で、最後まで習い続ける児童は、高学年の状況から推して少数になろう。家庭での学習環境は68%の児童は勉強部屋を有しているが、学習をみしてくれる人は30%にすぎず、家庭訪問の折、親たちは異口同音に「忙しくて子どもをかまっていられない」と訴えていた。このことから放任の日々の学習指導に更にくふうを要することが痛感される。

(2) 知能と学力(国、社、算、理)検査から

(表2) 教研式学年別知能検査(48・4・20実施)

知能段階	1	2	3	4	5
男	0人 0%	5人 12%	4人 10%	6人 15%	2人 5%
女	4人 10%	3人 8%	11人 27%	4人 10%	1人 3%
計	4人 10%	8人 20%	15人 37%	10人 25%	3人 8%

知能検査結果では、4・5段階の児童は38%で、1・2段階は30%である。偏差値では最高70で65以上が3名、最低が26で34以下4名である。学級平均は49.4となり、全

国平均(50.0)をわずかに下まわり、男子は女子に比してやや優位となっている。

学力検査に於ては、国語、社会、算数、理科の4教科を実施した結果、(表3)理科が最も振わず5段階はゼロであった。他の3教科については、算数がやや良好で4・5段階が46%であり、次いで社会・国語はほぼ平均的な学力といえる。しかし、1・2段階の児童が国語23%、社会23%、算数

18%,理科47%いることを重視し,これら個々の児童の不振の原因を探究して,その学力の向上に努めることは,担任としての責務である。

なお(図1)は,学力と知能の分布をあらわし(表3) 教研式小学診断的学力検査(48・6実施)

たものであるが,だいたい3段階の児童の学習意欲を盛り上げる必要があり,2・4段階の児童が比較的努力している傾向を示しているように思われる。

(3) 教研式学習適応性検査(AAI)(48・6・7実施)

どの担任教師も,学級のすべての児童がそれぞれに,その持てる力をいっばいに発揮し,学習に取り組

み,自信をもって行動し,日々の生活に楽しみと希望をもつことを願っている。しかし,児童の中には本人も教師も気づかないいくつかの原因によって,意欲,気力のとぼしい,または空しい努力に終わっているものが多い。学級児童個々の学力向上の要因,学習適応性,特に知能が普通またはそれ以上でありながら,学習成績が不振であったり,停滞している児童のその原因を探り,治療の手だてをくふうし,学習の能率,効果を高めるための指導に資するべく,このAAIを行なってみた。その結果,特に問題と思われる児童(日常観察記録とも合致)数名が発見され,家庭とも連携協力しつつ,日々の学習指導生活指導,交友関係の改善等に留意しつつ,その指導にあたった。(2 事例A子の場合参照)

(4) 学校生活観察日誌と児童観察記録簿

(表4) 学校生活観察日誌

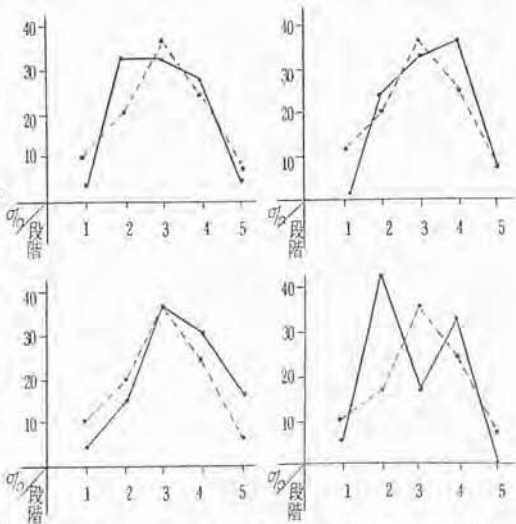
月	日	曜	天候
学習状況		行事	
		生活指導	
		感想・解釈・反省	
行動面			

(表5) 児童観察記録簿

氏名	月日	場面	学	習	行	動	教育相談その他
○山○夫							

それぞれの児童の持っている個人的な特性は,学級集団としても,また学級成員相互の関係においても尊重されるべきものである。担任教師は児童ひとりひとりのその特性を早急に発見し,理解し,

段階 性別 教科	1		2		3		4		5	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国語	0	1	6	7	7	6	3	8	1	1
社会	0	0	3	6	8	5	4	11	2	1
算数	0	1	1	5	8	7	5	7	3	3
理科	1	1	8	9	1	7	7	6	0	0



(図1) 学力と知能相関図(— 教科 --- 知能)

学級内や学校内での活動において生かすよう配慮しなければならない。それには各種の検査や調査を実施することもたいせつであるが、それらのデーターや結果のみにもとづいて断定するのでなく、日々の観察等も加えて、総合的、内面的に児童をとらえることがたいせつである。それぞれの児童に見られるさまざまな現象は無視できないが、これまたその現象だけにとらわれた理解のし方、あの子は……といった固定した先入感は、正しい児童理解の妨げになることにも注意しなければならない。

(表4)(表5)の「学校生活観察日誌」と「児童観察簿」は、そうした独断と速断をさけるためにも、児童を全体的に個別的に継続観察するので、児童個々を動的にとらえ、何がそうさせたかを考え、その心情の動きにも目を向け得る資料として有意義であると思う。

学校生活観察日誌は、その日の学校行事、学習、生活指導等のかゝり合いの中で、学級児童の個々が、あるいは全般が、どう反応し、どんな傾向を示したかを放課後記録するのであるが、特にその日、心に残った児童の発言、行動、態度については、できるだけ事実即して記録し、それに対する意見、感想、解釈や担任としての指導反省等もあわせて付記しておくものである。

児童観察記録簿は、清掃や遊びや学習指導の時間に、特に気づいた児童の行動や発言をメモ的に記録したり、また上記の観察日誌に記された事項で、その児童にかゝりのあることを転記し、それによって、個々の児童の態様をは握することをねらいとしたものである。

こうした作業をとおして、担任自身の児童理解の傾向がわかり、また理解のし方が反省できることゝあわせて、どの児童が担任の目から取り残されているか、目につく児童はだれかということが判然とし、それら児童への今後の指導の手だてがくふうされるのである。

2 事 例 — A子の場合 —

(1) 1学期学習記録と所見(表6)

国	社	算	理	音	図	体	理解力はあると思われるが、学習態度消極的で意欲がとぼしく、ほとんど挙手をせず、また忘れ物が目立つ。全般的に学業不振である。
1	2	1	2	3	2	1	

(2) 行動の観察記録

机やロッカーの中は乱雑。反省会のつと「清掃におくれてくる。」「給食当番の仕事を忘れる。」等級友に指摘されても、態度は改まらず、ソシオメトリックテストの結果、被選択数0、被排斥数16、社会測定地位数-0.2である。しかし一面、人をつっこく、休み時間など担任によく話しかけてくる。体格小柄、少食で給食時毎回パンは半分くらい残す。

(3) 生育歴と家庭環境

1才の時、養女となる。養父は地方公務員。養母は家庭にて和裁内職。経済状況、中。幼時より両親の溺愛により我がまゝうちべんけいで、今では親のしっ責も受けつけなという。自主性、自立心はとぼしい。食物好ききらい多く、顔色もさえず、かぜをひきやすい体質である。

(4) AAI検査結果

(表7)の診断表のように「授業態度」を除いて、下位テストはすべて2段階であり、特に「心の健康」が1段階に近い結果を示している。そこで応答を1問ずつ調べ分析すると、学習に対する自信のそ

う失と意志の薄弱,精神の不安定が見られた。なおバッテリー(表7)AAI診断表(1)内は5段階評価一用診断プロフィールでは,偏差値が国語41,社会42,算数48,理科38,知能46,新成就値-5である。これらのデータは,すべて絶対的なものではないが,かなりA子の実態を示しているように思われるのである。

勉強態度 14 (2)	学校環境 14 (2)
授業態度 15 (2)	心の健康 13 (2)
勉強技術 11 (2)	身体健康 17 (2)
家庭環境 16 (2)	偏差値 40 (中下)

(5) 指導方法とその経過の概要

指導の取り組みは,児童とその家庭の両面を考えた。まず児童に対しては「自信をもたせ,学習への意欲をもたせる」「親しい友だちをつくらせ,孤立感をなくし,友だちをとおして集団の一員としてのルールの遵守,責任感の育成を図る」家庭には「4年生らしい接し方,特に自分のことは自分でやらせること,時には突き離して自分で判断し行動させるようにする」ことを要請した。

方法としては,(a)学習時,しばしば比較的答えやすい発問で指名し,漸次学習への成功感を持たせるようにする。(b)特に日常観察を密にして,他児童より少しでもよい所が見られたとき,大きくほめてやり,また激励すること。(c)A子の近くの学級内児童と,その他2~3人の児童に依頼し,できるだけ誘って遊びの仲間に入らせさせること。(d)放課後これら児童と一緒に仕事を手伝わせ,友だちにも担任にも親しむ機会をより多くつくる。(e)家庭訪問をして両親と面接,A子の学校での様子を理解させるとともに,家庭での発達段階相応のしつけ方などを話しあう,等々。

以上の指導経過をたどったが,いまだ指導の日浅く目に見えた変容は見られないが,算数や国語の朗読などに挙手するようになり,9月末の除去計算テストにクラス8位の成績をあげるなど,1学期ころまでは見られなかった学習への積極さがやゝ感じられるようになったことは,担任としてうれしい限りである。

V 学級経営についての実践 — 向上と相互親和をめざして —

1 めあてのある生活実践

すべての児童が毎日の学級,学校生活が楽しい,張りあいがあるという生活実感,「生活に充実感をもたせる」ということが,生活指導の大きなねらいとされている。これは児童をして学校生活への意欲を高め,学級その他の仕事や活動に対して積極的に立ち向かおうとする態度化をねらったものであると思う。

そこで,(1)ひとりひとりにはっきりした生活の目標を立てさせ,積極的に向上する意欲を高める。(2)自分できめた目標を達成する努力と,その達成の喜びや満足感を体験させ,生活に充実感をもたせる。この2点を指導のねらいとし,そのねらい達成のために,(1)ひとりひとりの児童をみ

(表8) わたしのめあて(生活ノート)

月 日 ~ 月 日 ○山○夫			
めあて			
どうやって守るか			
日	曜	◎○×	一日のはんせい VS 活動
	月		
	火		
~~~~~			
	土		
わたしのはんせい			
おうちの人のことば			
先生のことば			

つめ、日々の生活の中から児童自身に課題をみつけさせ、意識づけ、適切な実践目標を定めさせる。

(2)学級全児童に「生活ノート」をもたせ、目標の設定、計画と実践、反省と評価(児童、父母、担任)の過程をとおして、個々に激励と援助や助言をあたえるようにするのである。

## 2 学級会係り活動の活発化 —— 自主性、社会性、個性の伸長 ——

学級での好ましい人間関係の醸成や学級集団としての向上心等、望ましい学級づくりは、個々の児童が学級生活の諸問題や仕事に目を向け、学級を向上発展させようという目的のもとに、自発的に仕事を分担し、自治的な実践活動をとおして運営処理していく学級活動の場、特に係り活動は効果的である。

### (1) 係り活動の内容

- ア 毎日常時活動し、学級集団生活を維持する活動ー JRC委員、生活係、整美係、掲示係、学習係
- イ 常時活動は必要としないが、学級集団を向上させるための活動ー 保健係、体育係、新聞係

### (2) 活動のマンネリ化をふせぐ手だて

係り活動は、その活動の成果がクラスのみならず認められ、評価されるよう、朝の話し合いや一日の反省の時間などで賞讃、激励されるようにし、係り児童たち自身も、グループ内で自分たちの活動計画をよく話し合い明確にして、仕事の分担、実践を確実に行うようにさせる。

## 3 J R C の V J S 活動の推進 —— 自分から進んでみんなのために ——

本校の教育目標の1つ「協力的にものごとにとりくみ、たくましく実践する気力を養う」を達成するため、J R C 活動を導入している。全校児童会からの組織的な呼びかけによる活動の他に、各学年において独自の活動を展開しているが、私の学級でも1日1回以上は、「自分から進んでみんなのために」という心の育成をねらいとして、実践に努めている。一日の反省会の中で「〇〇君は、今日清掃を手伝ってくれました」「〇〇さんは、今日廊下の雨具が落ちていたのをかけてやりました」という発表があり、クラスみんなで拍手してほめあう中で、実践した児童のうれしさそうを、それでいてうれしそうな姿ほど好ましいものはないのである。

## 4 楽しい学級行事の企画と実施

子どもたちが最も喜び、また生き生きとして個性的な姿をみせる場の1つに、学級行事の企画と実施がある。創造性が発揮される誕生会や、体育係りが企画したドッジボール大会や記録会やすもう大会、また夏休みに母親の参加を求めている学級遠足など、児童間の友情や担任とより親しさの増す学級行事は相互の理解と親和をめざす学級経営には欠くことのできない、高い教育的価値があると信じている。

## Ⅵ おわりに

「子どもが見える教師に自らを鍛えよ」と指導を受けたことがある。この実践をとおしてもなおるが道遠き感が深い。これからも日々子どもと取り組むなかで教師自身の「自己実現」をはかりたい。